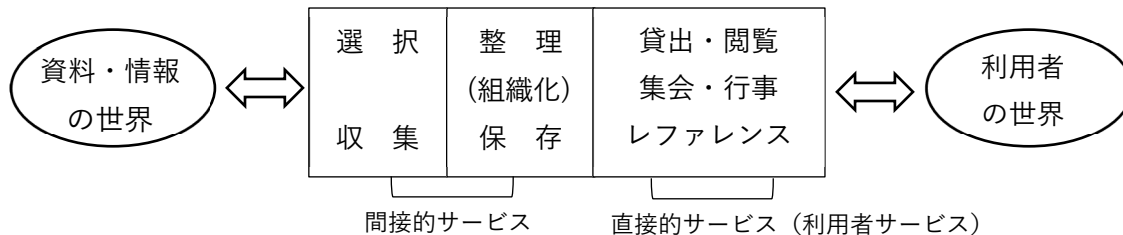


No. 7 学校図書館の役割

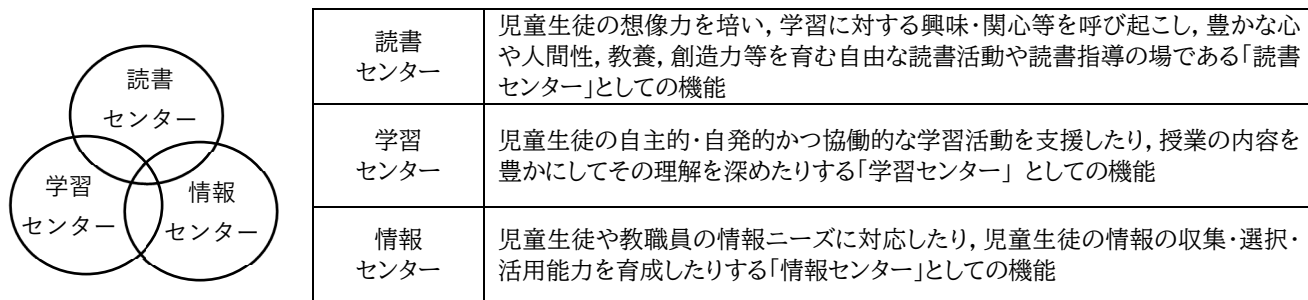
1. 図書館の役割

図書館は、学校図書館、公共図書館、大学図書館、専門図書館、国立図書館などの館種であってもその根本的役割は、資料や情報と利用者を結びつけることである。下図に示したように、資料・情報を選択して収集し、整理(組織化)して保存する業務は、利用者に対しては間接的であるため、「間接的サービス」と呼ばれる。一方、貸出やレファレンスサービスなど、利用者とは直接やりとりする業務は「直接的サービス」あるいは「利用者サービス」と呼ばれる。



2. 学校図書館の3つのセンター機能

学校図書館は、学校という教育機関に設置された図書館である。学校図書館法によると、児童生徒と教職員を対象に、「教育課程の展開に寄与し」、児童生徒の「健全な教養を育成する」ための施設である。したがって、一つの部屋であっても「学校図書館」なのである。また、学校図書館の館長は校長である(学校図書館ガイドライン)。学校図書館は、上記の図書館としての基本的な役割に加え、学校のなかにある図書館として、下図のように「読書センター」「学習センター」「情報センター」の機能をもっている。読書センターは、読書活動・読書指導を推進し、児童生徒の読む力や人間性を涵養する機能である。学習センターは、資料・情報の活用授業を推進し児童生徒の思考力・判断力・表現力を育成する機能である。情報センターは、探究的な学びを推進し児童生徒の情報活用能力を育成する機能である。



(上図の説明の文章は、『学習指導要領解説 総則編』に記載されているものである。)

3. 学校図書館の存在意義

- (1) 学校図書館は資料・情報の提供によって、学びを深めたり豊かにしたり、「読む力」や「情報活用能力」を育成したりする「教育のインフラ」である。
- (2) 学校図書館で扱う資料・情報は、印刷体からデジタル体、実物まで多様なメディアのものである。
- (3) 学校図書館は、教科間を横断的に把握してつなげることができる「学びのハブ」である。
- (4) 学校図書館という空間・場は知の集積であり、児童生徒の興味関心を広げ深めることができる。学校図書館がどのように整理・分類されているかを理解すると、知識を体系的に把握することができる。
- (5) 本とのふとした出会いが、生きる勇気や教養やセレンディピティ(偶然の出会いによる幸運・発見)などにつながる。